

【巻頭言】

学友会への感謝

編集委員 木村 礼子(65 回生)

私が学友会理事に就任してから、10 年以上が過ぎました。西谷先生から職場にかかってきた電話は今でも鮮明に記憶しています。「学友会の役をしてもらえませんか。3 ヶ月に一度、学校で役員が集まるから参加して下さい。」と言われ、人見知りの私は「いつも西谷先生も居てくださるのですよね？」と確認して理事を受けさせてもらうことになりました。今となれば、西谷先生が居てくださるのは当然のことだったので、とんちんかん質問をしていたなと思います。学友会の活動は理事をさせてもらうまでは無知な状態でした。在学生への就職相談・懇談会、大瑠璃祭(学園祭)での相談会、オープンキャンパスのお手伝い、学友会総会、支部総会、そしてこの学友だよりの発行等々、こんなに数多い行事をしていただいていたとは露知らず、恥ずかしい思いでした。



とはいえ理事になってからも、お役に立てることが少なく恐縮するばかりで心苦しいところです。しかし、ここまで続いた理由には、理事会があるごとに先輩・後輩理事の皆様とお会いして、色々なお話を拝聴できる場所にあると思います。

私は卒業後、京都の JR 宇治駅下車すぐのところに立地していたユニチカ中央病院に就職しました。診療放射線技師は私を含む 4 人。先輩 3 人は同門で厳しくも優しくご指導いただき、安心して働くことができました。10 年が過ぎた頃、病院は武田病院グループの傘下となり病院名も宇治武田病院と変わり、私は人事異動により山科武田ラクトクリニックで働くことになりました。異動後は母校の先輩が同じ職場におらず心細くなりましたが、ここから数年後に理事のお話をいただき多くの先輩方とお会いできる御縁をいただき感謝しております。

そして理事に就任してから、学友だよりの編集委員をさせていただいております。学友だよりは学生時代に発送準備のお手伝いをさせてもらったことがありました。卒業後は定期的に学友だよりが届くのが当然のように受取り、母校の様子や同窓会報告等を楽しみにしていた一読者でした。委員として関わると、皆様にお届けするまでにこんなにも手間が掛かっていたことを知り、歴代の編集委員長そして学友会本部に届く原稿をまとめていただいている先生方、特に今現在の遠山先生には敬服の念に堪えません。また一読者であった時に気になるペンネームで編集後記を書かれていた大先輩と理事に就任してからお会いできた時は凄く感激いたしました。そして一読者であった私が、巻頭言を書かせていただくことになるとは夢にも思いませんでした。私の場合、理事に就任してから理事の皆様や学友会活動に協力して下さる会員の皆様との御縁に恵まれましたが、まだ学友会活動に参加したことがないという会員の皆様、特に卒後年数の浅い会員の皆様、是非とも学友会活動に参加していただきたいです。まず、北は北海道から南は沖縄までの 24 支部があります。

勤務地の支部総会に参加いただき、2 年に一度、京都と支部の交互で開催される学友会総会にご参加下さい。先輩方や後輩の皆様との情報交換や交流の場はきっと有意義な時間を過ごしていただけると共に、今後の学友会と大学の更なる発展へと繋がると思います。とはいえ、まだまだ新型コロナウイルスの感染拡大は 2 年を経た今も先行きが見えず、職場や日常生活で大変な日々が続いております。総会も中止や Web 開催と開催方法も変わってしまいました。もちろん Web 開催にも参加いただきたいのですが、コロナが終息した暁には対面での開催のご参加をお願い致します。そして 65 回生同級生の皆様とも近い将来お会いできれば嬉しく思います。最後になりましたが、皆様のご健勝を祈念いたしまして締めさせていただきます。ありがとうございました。

以上